

1. 肌着の汚染に関する基礎的な研究

梅花短大 山本多美子

1. 汗腺及び皮脂腺の分泌物による皮膚の汚れが如何に肌着に附着吸収されるかによって、肌着の汚染度が規定される。肌着の汚染される度合を以下に述べるような各項目につき季節別、部位別に検討を加えたので報告する。

2. 肌着の汚染度の測定方法—5cm²の白キャラコを、成年女子3名に乃至4名について身体各部位、即ち胸・肩・背・衿・腋窩・脇・腹・腰・臀にあたるどころの肌着の内側の9カ所に縫いつけ、皮膚表面に接触させ、春・夏・秋・冬に各24時間づつ着用した後、試験布の汚れを測定した。測定した項目は反射率の変化、クロール及びアンモニア性窒素量、及び過マンガン酸カリウム消費量である。

3. 肌着の汚染度を身体の各部位別に検討すれば、多少個人差はあるが、四季を通じて反射率は衿肩背では低く、即ち汚れが多く、腹・臀は一般に反射率の低下は少なかった。クロール附着量は背・肩・腰・臀など身体後部に多く、腹・胸では少なかった。アンモニア性窒素附着量及び過マンガン酸カリウム消費量は腰・臀・肩・背に多く腹では少なかった。季節別に見ると各測定項目ともに夏が一般に多く汚染され、春・秋・冬の順位に汚染度が少なくなっている。